



不適正な言葉は「知」の乱れ

瀬戸昌之(支える会代表)

今の現状、いちばんベスト、などの言葉の不適正をあげつらうまい。とは言え、明らかな誤用は避けよう。たとえば、「……に鑑みて」の鑑みるには他動詞はない。したがって「……を鑑みて」は誤用であり、「知」を乱す。

最近の若いアナウンサーは「確認」を好むようである。大勢の人出が「確認」できます。〇〇の感染者数が「確認」されました、などという。人出の多い少ないは「確認」するまでもなからう。また、確認したはずの数を後で修正している。これでは確認とはいえない。「見られた、集計された」などといえよいのである。「約5人が確認されました」……もうやめよう。

いっぽう、たとえば米国政府の報告書では、警察の「知りえた」殺人事件数は、などと適切に表現している。警察といえども、殺人事件の数ですら「確認」できないのである。したがって、「知りえた」は適正な表現である。

さて、政策？を語った後で、「……と私は思う」などという大臣が多い。国民が聞きたいのは大臣としての役職の見解であって、個人の見解ではない。「私は思う」などといわれると、大臣の逃げが見え見えである。また、新型コロナ対策を議論しているとき、厚労大臣ではなく、経産大臣などが対応して、大臣の職務と責任を分散している。この緊張感の無さが、ついには菅総理の顔写真入りポスターにも極まった。「国民のために働く(菅内閣、自民党)」。こんな当たり前の標語？にいくら使ったのか。知の乱れも甚だしい。税金返せ。

